

## 1-1 日本とその周辺の地震活動（2009年5月～10月）

### Seismic Activity in and around Japan (May – October 2009)

気象庁 地震予知情報課  
Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は76回、M6.0以上の地震は12回発生した。このうち最大は、2009年8月9日に東海道南方沖、10月30日に奄美大島北東沖で発生したM6.8の地震であった。

2009年5月～10月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年6月5日12時30分に十勝沖の深さ31kmでM6.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。この地震は「平成15年（2003年）十勝沖地震」の余震域内で発生した。

#### (2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年6月23日16時37分に宮城県沖の深さ39kmでM5.6の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、沈み込む太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。

#### (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年8月9日19時55分に東海道南方沖の深さ333kmでM6.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型であり、太平洋プレート内部で発生した地震である。

2009年8月11日5時7分に駿河湾の深さ23kmでM6.5の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北北東－南南西方向に圧力軸を持つ横ずれ成分を含む逆断層型であり、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。この地震に伴い、静岡県の太平洋沿岸と伊豆諸島で津波を観測した（観測された最大の高さは静岡県御前崎市の36cm）。（本巻※1参照）

2009年8月13日7時48分に八丈島東方沖の深さ57kmでM6.6の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であり、太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。

#### (4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年7月22日23時51分に室戸岬沖の深さ29kmでM4.6の地震（最大震度4）が発生した。また、この地震の約1時間後の23日00時47分にも、ほぼ同じ場所でM4.1の地震（最大震度3）が発生した。（本巻※2参照）

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年9月3日22時26分に薩摩半島西方沖の深さ167kmでM6.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）はフィリピン海プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレートの内部で発生した地震である。

2009年10月30日16時03分に奄美大島北東沖でM6.8の地震（最大震度4）が発生した。今回の地震により、鹿児島県と沖縄県で小さな津波を観測した。この地震の発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震であると考えられる。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2009年7月14日03時05分に台湾付近でM6.5の地震（国内最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

2009年8月5日09時17分に宮古島近海でM6.5の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。1960年以降、この地震の震央付近では、M6クラスの地震が繰り返し発生している。（本巻※3参照）

2009年8月17日09時05分に石垣島近海でM6.7の地震（最大震度3）が発生した。また、同日19時10分に、ほぼ同じ場所でM6.6の地震（最大震度2）が発生した。これらの地震の発震機構（CMT解）はいずれも南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震活動では、M5.0以上の地震が本震を含めて7回発生したが、8月21日以降はM4.0以上の地震は発生していない。

2009年9月29日04時22分に沖縄本島北西沖でM6.1の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西－南東方向に張力軸を持つ型で、沖縄トラフの拡大方向と調和的である。この地震の震央付近では、8月中旬頃から地震活動が活発化しており、M3~4程度の地震が度々発生していた。

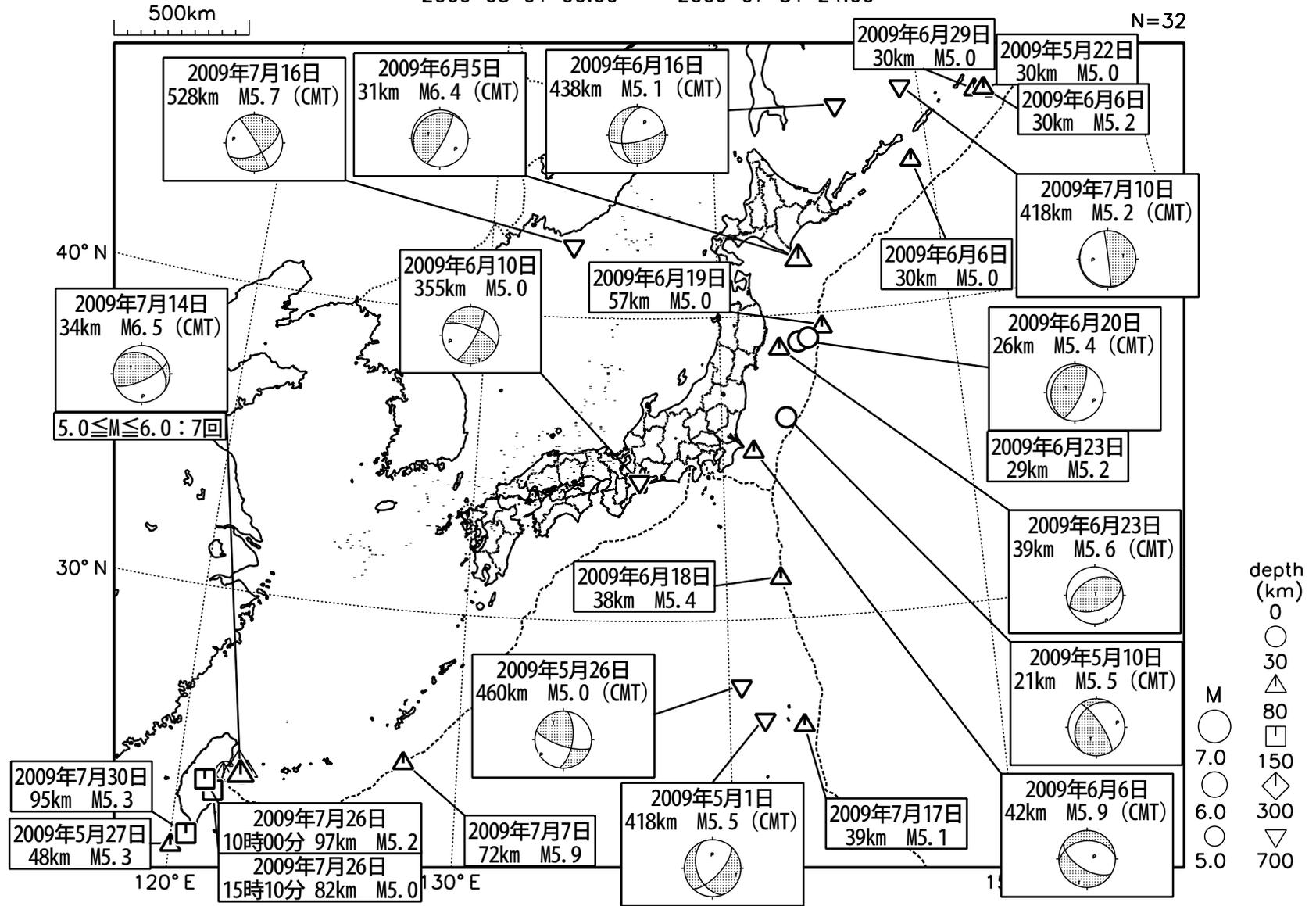
※1：「2009年8月11日駿河湾の地震（M6.5）について」（気象庁）

※2：「2009年7月22日室戸岬沖〔四国沖〕の地震（M4.6）について」（気象庁）

※3：「中～大規模の繰り返し地震についての規則性と不規則性」（気象庁）

# 日本とその周辺の地震活動 (2009年5月~7月、 $M \geq 5.0$ )

2009 05 01 00:00 -- 2009 07 31 24:00

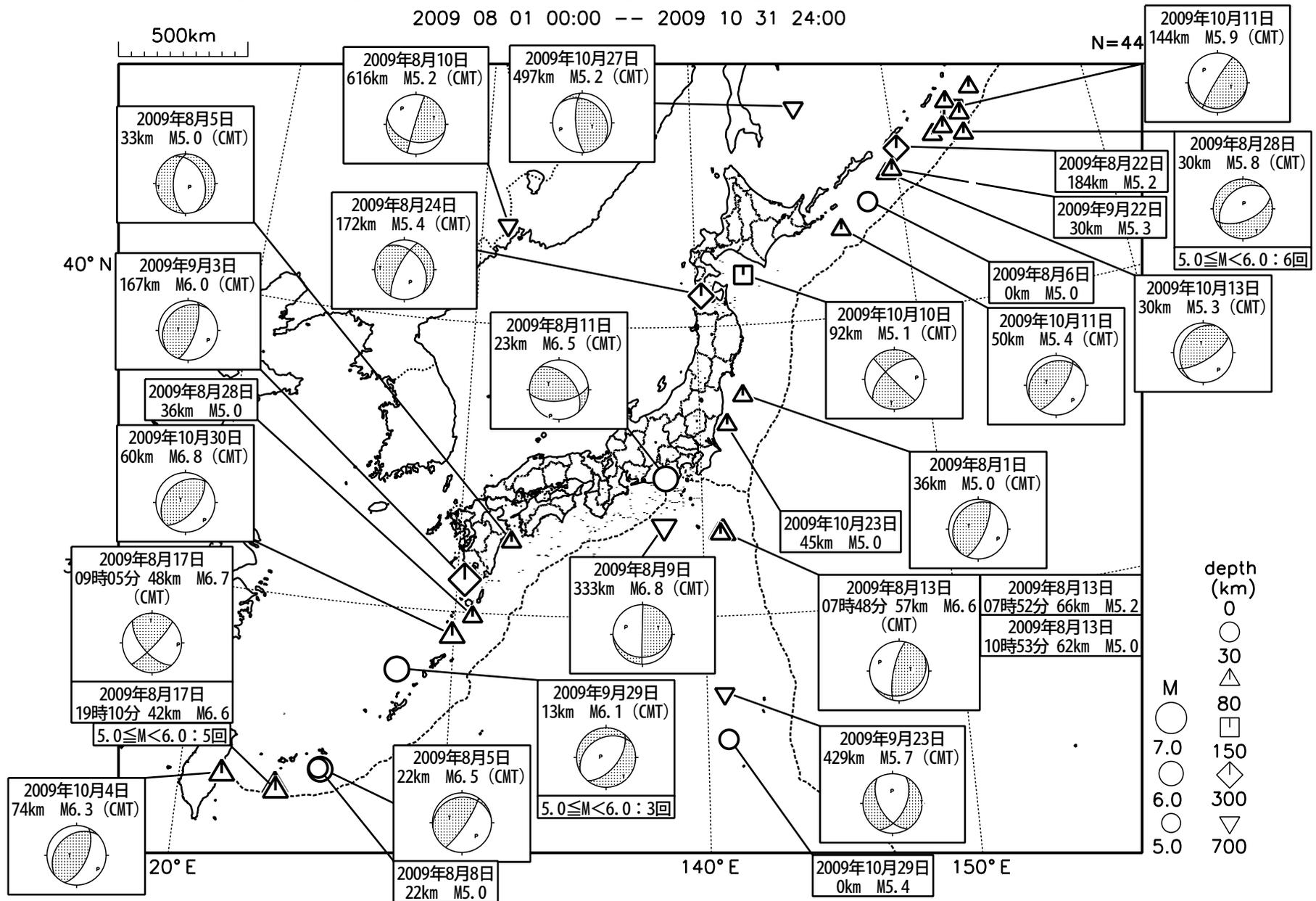


第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2009年5月~7月,  $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km)

Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (May – July 2009,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$  km).

# 日本とその周辺の地震活動 (2009年8月~10月、M $\geq$ 5.0)

2009 08 01 00:00 -- 2009 10 31 24:00



第1図(b) つづき (2009年8月~10月, M $\geq$ 5.0, 深さ $\leq$ 700km)

Fig.1(b) Continued (August - October 2009, M $\geq$ 5.0, depth $\leq$ 700 km).